

地域とともにある

勢いのある学校

No. 35 (R3. 2. 1発行) 文責 校長 福田雅也

# 高き志【こころざし】

## 朝のルーティーン

私の朝のルーティーンは、始業の1時間程前に出勤して、子供たちの登校の様子や安全を見守ることで。毎日、どこかの登校班の集合場所に行って、その班と一緒に登校し、最後は校門付近で、すべての登校班が登校し終わるのを見届けます。前任校からずっと続けていることで、私にとって大切な時間になっています。

なぜ大切な時間になっているかというと、子供たちや保護者の方々、地域の方々との様々な触れ合いがあり、絆が深まるように感じるからです。具体的な例を少し挙げると次のようなことがあります。

まず、子供たちとの触れ合いという点では、多くの子供たちの自宅を知ることが一番大きいと思います。（高山と甘木の一部は行くことができていません）私が子供たちの家を知っていることは、子供たちが私に親近感を持ってくれることにつながっているように感じます。また、子供たちのいろいろな姿を見ることが出来ます。集合場所に行く途中で、重いゴミ袋を両手にぶら下げ、ゴミ出しの手伝いをしている子に会ったことがあります。「えらいね」と頭をなでると、キラキラした目で本当に嬉しそうに笑ってくれました。登校班でトラブルがあり、懸命に対応してくれている6年生の姿が見られた日もあります。6年生の頼もしさを感じることができた場面でした。その時は、その6年生にお礼を言った後、先に他の子供達を連れて行って帰ってくるよう頼み、私は、泣いて立ち止まっていた低学年の子と話しながら登校しました。すると、家で少し嫌な出来事があったことやトラブルの中での自分の気持ちを少しずつ話してくれました。時には、登校班から遅れて、帽子もかぶらず不機嫌そうな顔で登校してくる子もいます。そんな時は、指導したり注意したりせず、「おはよう、元気？」とだけ声をかけ、一緒に歩きます。

これらのことを通して、私と子供たちの絆が深まるように感じるので。さらに、それらの情報すべてを担任等に伝えることで、子供たちの頑張りや心の状態を共有する大切な情報となっています。

次に、保護者の方々との触れ合いという点です。集合場所で、保護者の方々、集まってくる子供たちを見守っていただいている班が多くあります。そこで保護者の方々とお話をする、もちろん子供たちのことや学校のことが話題になります。短い時間ですが、私にとっては、保護者の方々の思いや願いを感じることが出来る機会であり、保護者の方々にとっては、校長である私と直接話ができる機会になっていると感じます。また、子供たちを集合場所に送り出した後、小走りで運転席に座り、忙しそうに出勤をされるお母さんや、夜勤明けで「今帰ってきました」というお父さんに出会うこともあります。お家の方々の頑張りやご苦労を感じることが出来る場面です。

最後に、地域の方々との触れ合いという点です。園田教育委員さんや北本学校運営委員会長さん、児童民生委員の皆様方には、直接子供たちの登校見守りをさせていただいています。お会いできた時に、子供たちや学校の話を中心様々なお話をすることができます。地域の学校、地域の子供たちをととても大切に思っている気持ちがよく伝わってくる貴重な時間です。その他にも、「いつもご苦労様です」「学校便り、いつも読んでますよ」と私にねぎらいの声をかけてくださる方、道路に出て一服しながら、子供たちに声をかけてくださる近くの工場の方々、庭で大切なバラの手入れをされている方、笑顔で子供たちと挨拶をかわして下さる元校長先生、通学路で毎日愛犬の散歩をされている方等、様々な方々と、ちょっとした会話ができる時間になっているのです。私にとっては、地域の方々とのささやかな絆を感じることが出来る機会です。

これからもずっと続けていきたい大切なルーティーンです。

このルーティーンで、朝から3000歩以上歩くことがあります。実はこのルーティーン、私の健康にも少し役立っているのです。